



教科名： 車両取扱・日常点検整備

2025年度

実習

一級自動車工学科・自動車整備科

時期： 1年 前期

科目： 自動車整備作業

時限数： 32時限

<改訂履歴>

改訂年度	改訂事由	発行日/担当	
FY19			
FY20			
FY21	内容確認 変更なし	2/26	清水
FY22			
FY23	シラバスメンテナンスのため	6/1	合田
FY24			

教頭	課長	学年統括	教科担当	教科担当

一級自動車工学科・自動車整備科 2025年度

授業計画

時 期	1年前期	単元	実習	教科名	車両取扱・日常点検整備			
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	安全テキスト		発行日	2022年2月26日		
			配布資料					
※ 注1 総時限	32時限		実習ノート（初回授業時配布）		教科担 当	村上 政明	※ 注2	● ■
※ 注1 授業時間	51.2時間						※ 注2	● ■

一般科目と休講等予期せぬ事態に備えた余剰分を含め、合計時間は1944時間（50分ベース）を確保（法定合計時間1800時間（50分ベース））

1. 指導教員の実務経験

該当

非該当

自動車整備士として車両取扱の実務経験がある教員によりお客様の車両の取扱について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

- ①. お客さまの車としての取り扱いを理解する。
- ②. 日常点検作業を理解する。
- ③. 油脂類、電球の交換作業を理解する。（エンジンオイル、冷却水、ヘッドランプ球）
- ④. ボードオンリフトを使用してタイヤの脱着を理解する。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

- ①. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を習得する。
- ②. 油脂類の交換が確実にできる。
- ③. その他、一般的な消耗品の交換・日常点検作業が確実にできる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

実習評価点は、技術評価点（70点）＋レポート評価点（15点）＋取組評価点（15点）とし、
60点以上（工学科は70点以上）を合格とする

技術評価点

実技試験：60%

- ①ガレージジャッキ、リジトラックを使用してのジャッキアップ
- ②ボードオンリフトを使用してのタイヤ脱着

筆記試験：40%

- ①車両取扱や軽作業のルールなどについて

5. 準備学習

・安全テキストの車両取扱のパートをよく読んでおくこと。

※注1 総時限の1時限は、80分/1時限を表し、授業時間の1時間は、50分/1時間を表す

※注2 ●⇒実務経験がある教員 ■⇒日産資格保持者

6. 指導目標

- ①. お客さまの車両を取り扱う上での注意事項を理解させる。
- ②. サークルチェックの重要性を理解させる。実習開始前には、サークルチェックさせる。
- ③. ジャッキアップ時の危険予知を常に意識させる。
- ④. 安全確認、安全作業を常に意識させる。
- ⑤. 工具選択の重要性を理解させ、常に適切な工具の選択を意識させる。

2025年度 授業計画

[illegible]

一級自動車工学科・自動車整備科

2025年度

授業計画

時 期	前期	単元	実習	教科名	車両取扱・日常点検整備
7. 安全 (KYのため必ず授業内で説明)					
番号	作業名	遵守事項		災害事例	チェック
1	ガレージジャッキの使用法	共同作業時は、互いの安全を確認しながら作業する。		声掛けをせずロック・ハンドルを緩め手をはさんで負傷した。	
2	工具の使用法	作業に適した工具を使う。 正しい作業姿勢を心掛ける。		ボルトを緩める際にスピナハンドルを引かず体重を掛けて押したため、手をはさんで負傷した。	
3	エンジンの始動方法	必ず合図をしてから、スタータを回してエンジン始動を行う。		エンジンルームで作業をしているにもかかわらず、スタータを回し、ファンベルトに手を巻き込まれた。	
4	ボードオリフトの使用法	共同作業時は、互いの安全を確認しながら作業をする。		声掛けをせずリモコンを操作し車両にぶつかり負傷した。	

8. 授業レイアウト (写真の貼り付けも可)

実習場

座学教室



・手前の5つにリフトを使用し1台につき4～5名で車両実習を行う。